

ヤシカフレックス写真術



スウイトビー

撮影者 秋山庄太郎

(データー)ヤシカフレックスB型
レンズ・ヤンコール F5.6 1/500秒
エクタクローム タイプ B
カラーフラッド5ヶ使用 (500W)

御挨拶に代えて

八洲光学工業株式会社

取締役社長

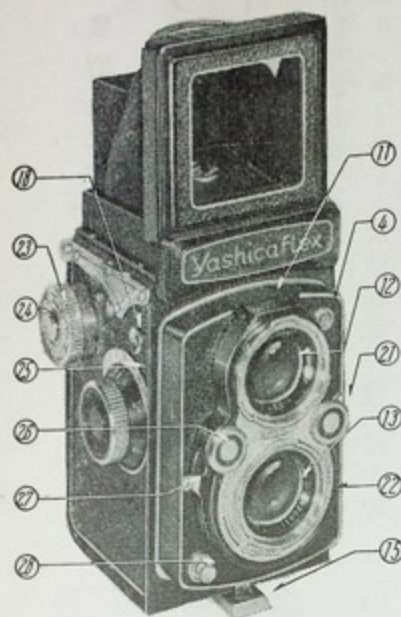


牛山善政

皆様がヤシカフレックスをお選
び下さいましたことに対し、私は
当八洲光学工業株式会社を代表し
て厚く御礼申し上げます。

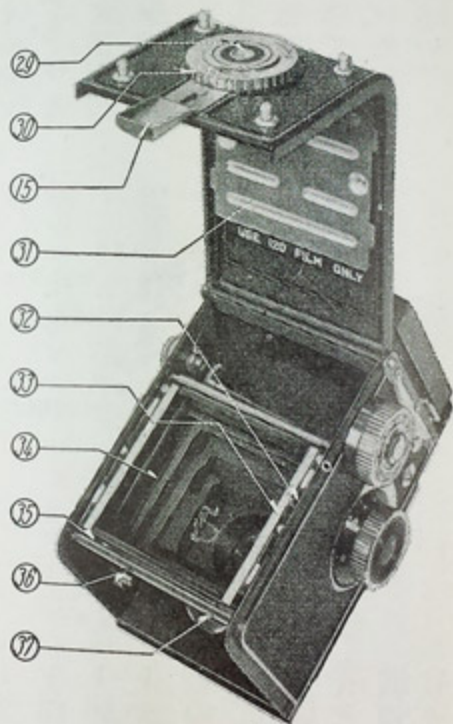
思えば、このヤシカフレックス

写真術は、上梓以来実に三十万部
という大増刷を致しました。この
ことは一台に一冊ということから
推して、ヤシカフレックスの愛用
者の激増ぶりをそのまま証明する



- ⑪ 絞り調節リング
- ⑫ バヨネットマウント
- ⑬ ASA感度表示盤
- ⑭ ストップボタン
- ⑮ 被写界深度目盛
- ⑯ シャッター速度調節リング
- ⑰ シャッターセットレバー
- ⑱ シャッターボタン

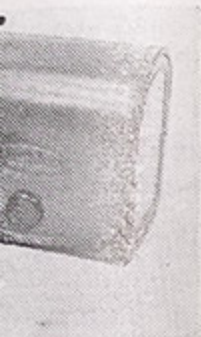
- ⑲ 三脚用止めネジ
- ⑳ 裏蓋開閉リング
- ㉑ フィルム圧板
- ㉒ フィルム番号自動復元装置
- ㉓ スタートマーク
- ㉔ ハレーション防止枠
- ㉕ フィルムロール
- ㉖ フィルム受袖
- ㉗ フィルム安定装置





る紫外線にもよく感じるため、晴天の風景撮影などでは、紫外線の影響で遠景が霞んで鮮明な画像を描写することができません。この紫外線を吸収するのがUVフィルターで、これはまた、露出倍数がかからないため、レンズを保護する立場からも常用されています。

黄色系フィルター（露出倍数約1.5～2.5倍）黄色系のフィルターは、紫外線を吸収すると同時に、黄色系統の色彩を明るく、青色系統の色彩を暗く表現できる強調フィルターで、山や海そして人物写真などに多く使われます。ですから風景の場合には、空の濃度を適度におとし雲などを鮮明に描写でき、また人物の場合には、顔を明るくすると同時に質感描



ブルおそれがあります。

このように、レンズの写

角外からくる有害光線を



ライトを使つてのスタジオ撮影ではかかすことのできない附属品です。

なおヤシカB型には、バヨネット30角型の専用品が当社から発売されています。

フラッシュガン（シンクロ撮影の項参照）

接写用補助レンズ（接写の項参照）

三

脚

主として1/10秒以上の長い露出をする場合にカメラをブラさないために使うものですが



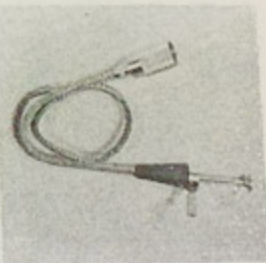
との差は密着ではわからなくても、四ツ切ぐらいに伸すと両者の差がはつきりします。三脚にはカメラのアングルを自由に調節できる雲台という道具が必要で、三脚と一体になった製品もあります。ヤシカB型では、グリッブで操作できるシネ型雲台が一番便利です。

レリーズ

ボデーシャッターで長い露出をかけるときには、三脚にカメラを固定しても、よほど大型のがつちりした三脚でないかぎり、手の振動が影響します。これを防ぐために、レリーズ（ワイヤーレリーズまたはケーブルレリーズ）というシャッターをきる用具があります。B

できれば1/100秒をきる時にも使用する方がよく、手持ちで写した写真と三脚を使った写真

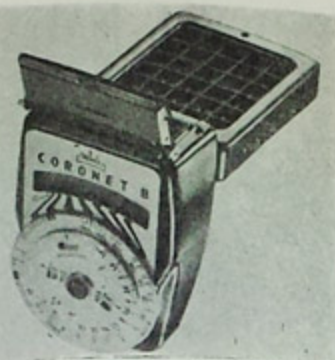
型でこのレリーズを使用するときは、シャッターボタンの根元の化粧リングを外し、そこへライカマウントレリーズを取付けます。



電気露出計

写真撮影で一番神経を遣うのが露出の問題です。この厄介な露出を簡単かつ正確に示してくれるのが電気露出計です。

この電気露出計について簡単に述べますとまず、入射方式と反射方式の二つに分かれます。入射方式とは、露出計を被写体の位置からカメラの方向に向けて光源の明るさを測定する方式のものです。最近では、暗いところでも露出が測定できるよう考慮されたものが市販されています。（写真参照）価格は大体二〇〇〇円から八〇〇〇円ぐらいです。



露出計付スターブースト

ります。ですから、この入射式のものはある程度写真の知識をもつ方々に向くといいえましよう。なおこの露出計では、光線の入る部分ができるだけ半円球のものがよく、これによって立体的な被写体の明るさの平均値を測定することができます。

これに対し、反射方式の露出計というのは、カメラの位置の方から被写体に向けて露出を測定する方式を採用したものです。空からの反射光が入らないように被写体に近づけ、やや下向きに計るのが最も一般的とされています。この反射方式の露出計は写真愛好

家の間で最も多く使用されているものですが光線の入る口はできるだけ狭く、しかも、明るい部と暗い部分の両方を測定して、明るさの平均値を求める必要があります。最近ではこの入射反射の両方を兼用した露出計も多く、更に、ブースターをつけて暗いところでも露出が測定できるよう考慮されたものが市販されています。（写真参照）価格は大体二〇〇〇円から八〇〇〇円ぐらいです。

計露出式反射入





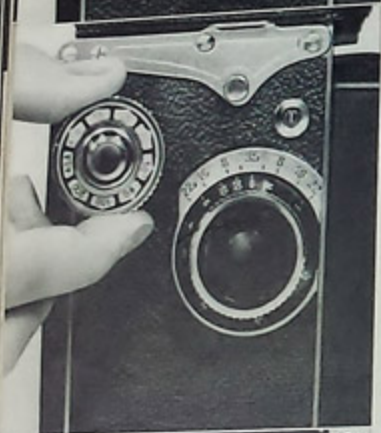
ヤシカB型 ヤシコールF3.5 80mm
※秒 ネオパンSS (マイクロファイン)

フィルムの巻き方

ヤシカB型はフィルム駒数計自動復元装置付ですから、裏蓋を開ければ、フィルム番号表示窓には自動的にS印が出るようになっております。



① フィルム装填が終了裏蓋を閉めれば、フィルム番号表示窓には自動的にS印が出ています。



② このままフィルム捲取りノブを捲いてゆけば①が出て止ります。これで一枚目の撮影ができます。



③ トップ一枚目の撮影が済んだら、ストップボタンを押して捲けば②が出て止ります。以下これを繰返す。



① フィルムの先端(リターナーバー)を引きだし、上部の空スプールの中心の溝に差しこみます。



② 左右を均等に差しこんで、次にフィルム捲取りノブを矢印方向に廻してゆきます。



③ 少し捲きますと、フィルムに△印が出てきますから、これをカメラのスタートマークに合わせます。



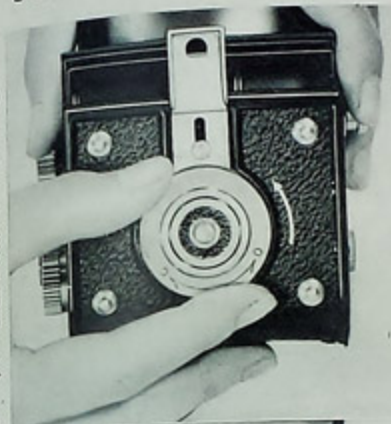
④ 裏蓋を開け、開閉リングをCの矢印方向に廻し完全に止めればフィルム装填は完了です。

各部機構の扱い方

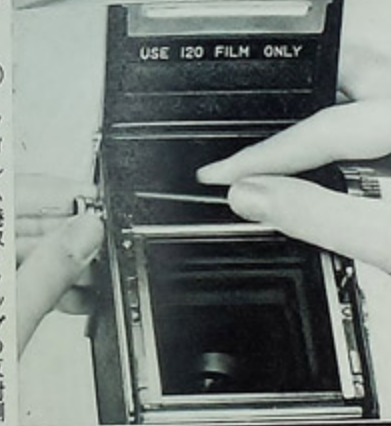
この項目をよく読んで、順序に従った正しい取扱いをして下さい。

フィルムの入れ方

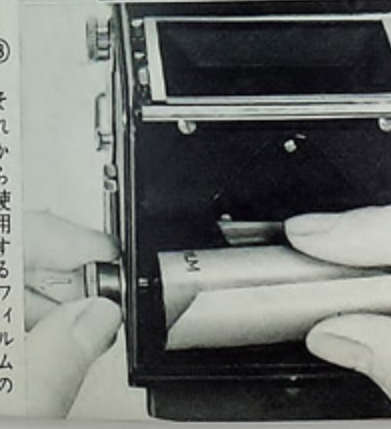
フィルム装填の際は次の順序に従って、できるだけ日光の直射光を避けて日陰でおこなって下さい。



① カメラの裏蓋の開閉リングを0の矢印方向に廻しますと、自動的に裏蓋が開きます。



② フィルム捲取りノブの反対側のスプールを入れます。



③ それから使用するフィルムのリールを切り、前と同じ要領で下部の方に挿入します。

革ケースの外し方

革ケースは常にカメラを保護するものですからできるだけ革ケースにはめて使用して下さい。



① 革ケースの左右上部の差し込み金具を上へ引き上げて革ケースを外します。



② 繰り出しノブのある側から、写真のように革ケースを左右に開きカメラを引き抜くように外します。



③ 革ケースの前蓋をとるときは革ケースのボタンを写真のように外します。

カメラの構え方

二眼レフの構え方はカメラを胸の高さにおくことが基準ですが、それはカメラを安定させるために最もよい位置だからで、実際にはカメラの構え方にもいろいろの方法があります。これは被写体を最も効果的に写せる位置と角度を選ぶ必要があるからです。しかしかなる角度の狙いでも常にカメラの安定をはかることは当然で、構え方が悪いと5秒でもカメラブレを起し、どんな優秀なレンズの描写性能も発揮できませんから、この項目を参考に正しい構え方を修得して下さい。



基本となる胸の高さ

二眼レフカメラを使用する場合、最も多く用いられる構え方がこの写真のように胸にぴったりとカメラを固定して撮る方法です。両手でカメラをしっかりと胸につけ、右手の親指と人指し指で繰出しノックを回転して焦点を合わせ、人指し指でしずかにボデーシャッターを押しますが、このカメラを支える手が、撮影レンズにかからぬよう、注意が肝要です。カメラの安定を保つため写真のように革ケースのベルトを利用する方法がよくとられますが、このとき、ベルトにたるみがあったり何にもなりません。以上のことに気を配り両足を少し開いて構え、両肘はかるく身につけるようにしてシャッターを切して下さい。

その他機構の扱い方

日型の性能を発揮するため以下の機構は本文の各項目の記事と合わせてよく理解し正しい取扱いをしてください。

レリーズの使い方

レリーズを使用するときはまず、ボデーシャッターの根もとの化粧リングを左へ廻してはずし……

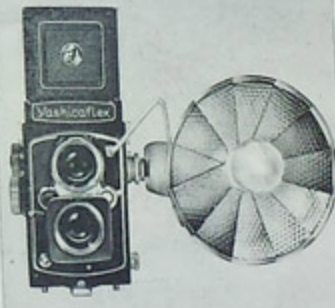


次に根もとのネジ山にライカマウントレリーズをはめ、静かにレリーズを押すとシャッターが切れます。



フラッシュユガンの使い方

ポケット型の小型フラッシュユガンを使用するときは、アークセサリクリップにとりつけてください。



筒型フラッシュユガンを使用するときは、カメラ下部の三脚用止めネジにとりつけてください。



X接点の使い方

フラッシュ撮影でX接点を使用するときは、シンクロ切替レバーを矢印のようにXにおきます。



M接点の使い方

M接点を使用するときは、切替レバーをMにおきます。(セルフレバーをチャージする必要はなくなりました。)

セルフタイマーの使い方

①シンクロ切替レバーをXにおき②シャッターレバー③セルフレバーの順でセットしシャッターを押すと、七秒八秒でシャッターがきれます。



フィルム感度表示盤と被写界深度目盛

フィルムのインジケータや、被写界深度目盛も大いに活用してください。



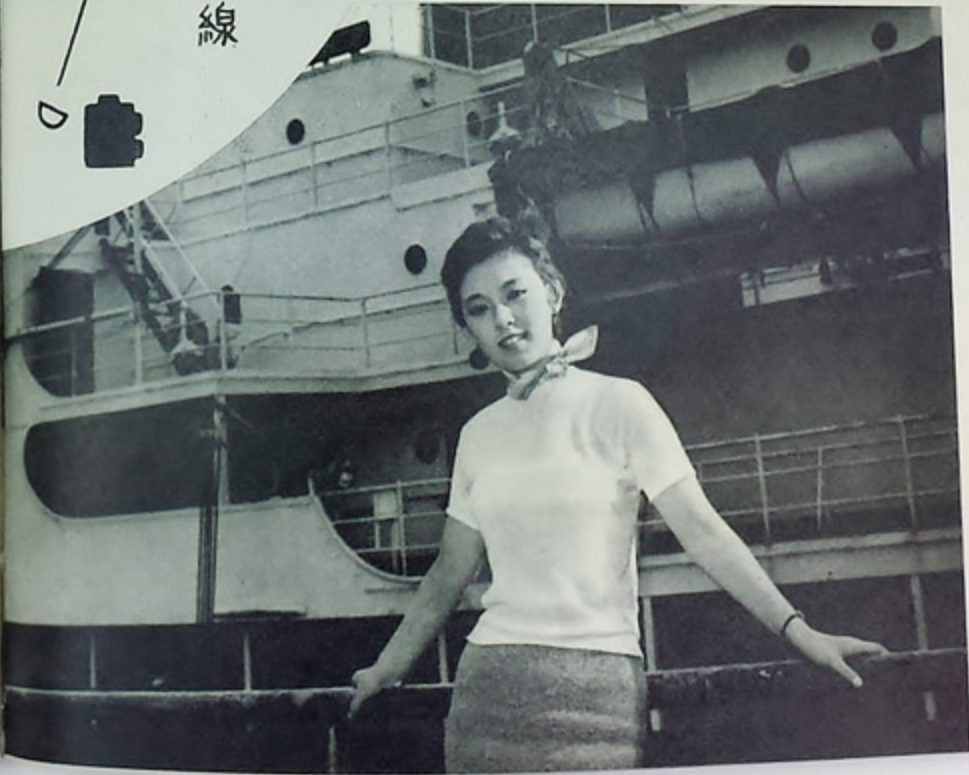
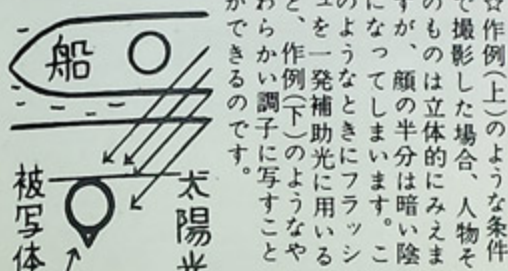
撮り終えたフィルム

撮影の終わったフィルムは入れるときと同じ要領でだし、きちんとシールする習慣をつけましょう。



変わったフラッシュ撮影

フラッシュ撮影は、だいたい暗いところで使われるもののように考えられていますが、必ずしもそうしたときばかりに用いられるものではなく、デイライトフラッシュと違って日中太陽光線の補助光線として用いたり、バウンスドフラッシュと違って壁や天井にフラッシュをあてその反射光を利用したシンクロ撮影など、いろいろ変わった方法があります。これらデイライトフラッシュとバウンスドフラッシュについてそれぞれ作例を掲げて説明いたしますが、フラッシュ撮影にも変わった使い方のあることを頭において、シンクロ撮影を楽しみましょう。



☆太陽光線のよわい夕方などどうしても顔が黒くなりかな条件で撮影するとき、思いきってカメラの横から一発フラッシュをあてるのも効果的です。しかしこのような方法で写したものはどうしても立体感にとほしくなり、平面的になりがちですが顔全体は明るく写ります。ただデイライトフラッシュで撮るときは、バックがあまり暗くならないよう十分注意することが大切です。



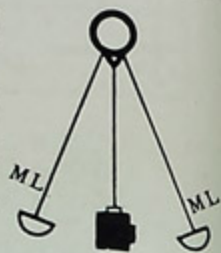
☆暗い室内でシンクロ撮影をする場合、直接被写体にフラッシュをあてず、バウンスドフラッシュという方法をとれば、室内の雰囲気そのままに目で見たいような自然の感じを写すことができます。この方法で撮影したものは光が被写体全部にまわるため強い陰をつくらずに済みます。





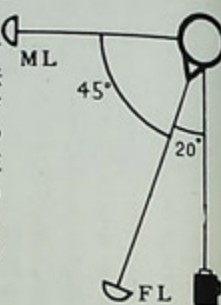
フロントライト

この採光はゴッゴツした顔形の人にむくもので、シワや顔の凸凹がほとんど目立ちません。しかし蔭になる部分がないため顔の欠陥が描写され立体感もあまり感じられません。誰にも向く採光とはいえないでしょう。
☆MLのH=±0



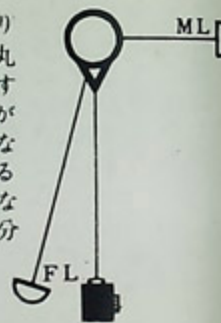
レンブラントライト

この採光はブレンライトを逆の方向から撮ったものでやはり広く親しまれた採光法です。この場合も陰の部分比較的多くなるため補助光の強弱によって結果は大きく左右されます。特別の目的でもないかぎり陰をあまり強くない方が結果はよいでしょう
☆MLのH=+45°
FLのH=±0



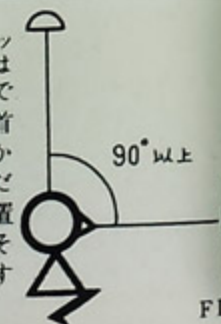
ハーフシャドウ

この採光は実際に見るより顔がやや長く写りますから丸顔の人にむく採光といえますこの採光もしわなどの欠点あまり目立たず、性格描写などをする場合にむくといえるでしょう。顔の半分が陰になるこの採光では補助光を十分考慮してください。
☆MLのH=±0
FLのH=±0



トップライト

頭上に主光線を用いるトップライトは使い方によってはなかなか妙味のある採光法です。しかし顔はもちろん、首の下などに強い影がでますから適度の補助光を使ってください。この場合主光線の位置を多少変化することによりその結果がいろいろと変わります
☆MLのH=±90°
FLのH=±0



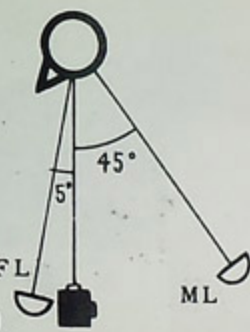
採光

ライティング

ライティングによるポートレート ヤシカB型 F5.6 1/80秒 ネオパンSS使用 (MLは主光線、FLは補助光線)

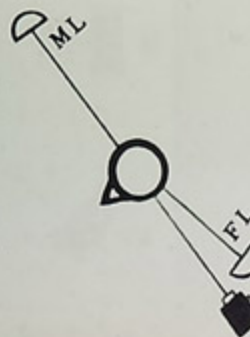
ブレンライト

採光のごく基本となるもので顔が最も自然にみえ、そのうえ顔自体が美しくすなおに感じとれます。ですからこの採光は商業写真を始め、見合写真などにもよく使われ親しみのある採光法です。
☆MLのH=+45°(Hは高さを示し、+45は顔の高さより上方45度の意) FLのH=±0 (±0とは顔の高さを示す)

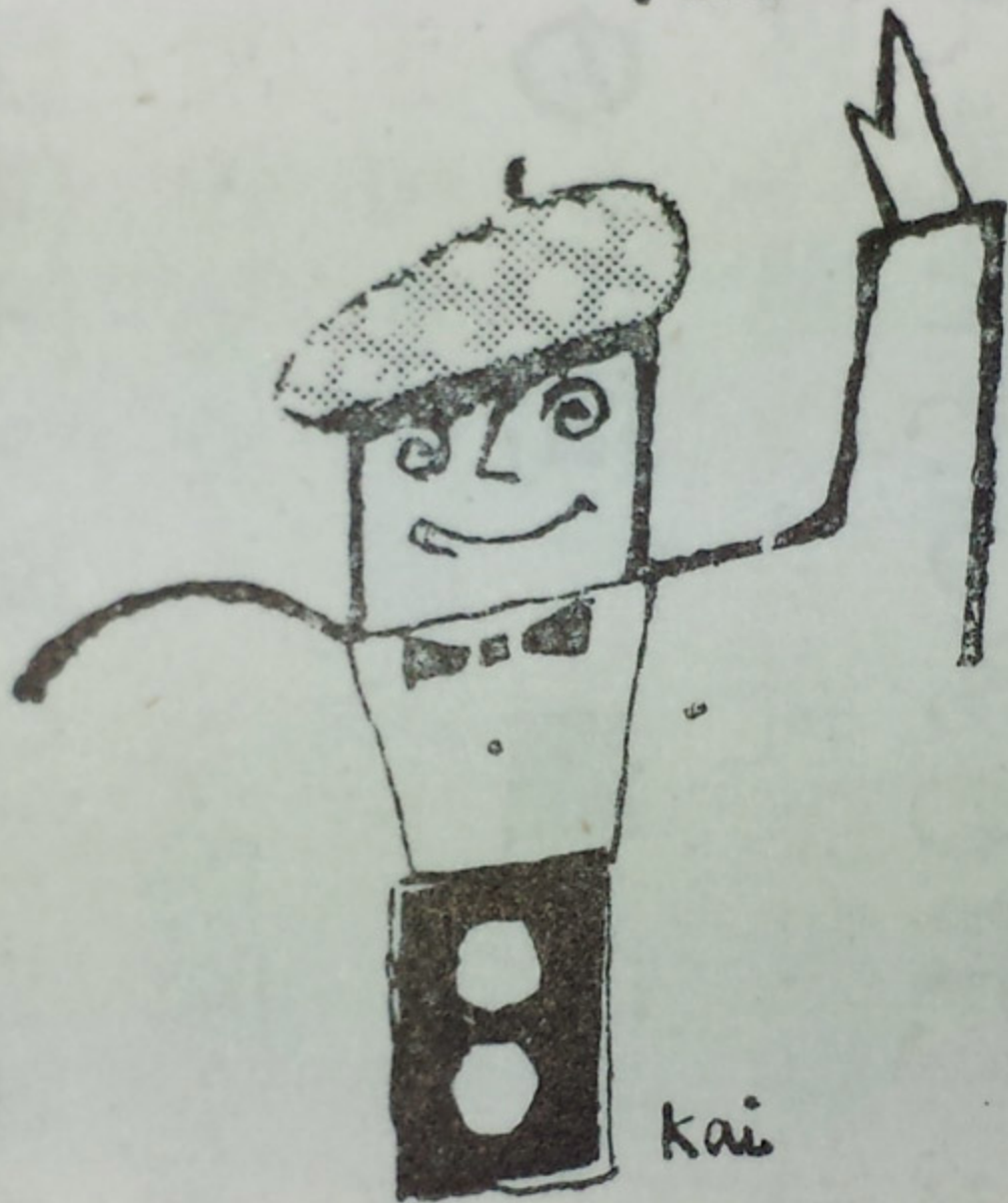


ラインライト

美しいプロフィールの撮影などに最も効果的な採光法で、性格を強く表現する写真にむくといわれますが、暗部が多くなるため、補助光に十分気をくばることが大切です。また顔の輪かくのハイライトは平均したふとさで採光することがコツです。
☆MLのH=±0
FLのH=±0



Yashica



Kai

フラッシュガン
に入れる電池で
すが、3ボルト
程度の電池を使
用しても、発火
するように閃光
れていますから単
三本でもシンク
電池は長持しない
池とキャパシター
・C（キャパシタ
多いようです。よ
し式と名称の入っ
は以上のどれにも

ンをカメラに取付けて発光させる一発シンク
ロで、この方法が最も普及しています。しか
し強い閃光が一カ所から被写体にあたるため
どうしても実際目に映った感じより平面的に
なり、そのうえ被写体とバックが近い場合に
は強い陰が生じてきます。それでもシンクロ
撮影の中ではカメラに発光器が直接取付けて
あるため、最も簡単で便利な方法でしょう。



影
は、フラッシュユガ

ケース共) ¥ 1,400

タイプP-2 反射光式

ケース共) ¥ 3,400

タイプ (電池付) ¥ 2,000

発光器〇〇型 (電池なし)

¥ 1,300

シユガンII型 (電池付)

¥ 2,600

ミニアー (電池付) ¥ 2,600

スター (電池付) ¥ 4,150

小型 7 ^m/_s ¥ 38

中型 8.5 // ¥ 50

小型 20 // ¥ 45

ストロボ (エレクトロニックフラッシュ)

ウェストライトIA型 ¥22,000

ワルツスピードライト ¥18,000

カコSストロボ ¥ 6,000

写真電球 (レフレクターランプ)

アイ・ベビーフラッド 250ワット ¥ 280

// ミニスポット 150 // ¥ 240

// スポット 300 // ¥ 400

// // 500 // ¥ 600

// カラー用フラッド 500 // ¥ 700

// カラー用スポット 500 // ¥ 700

マツダ・フラッド 300 // ¥ 480

// // 600 // ¥ 770

// スポット 300 // ¥ 480

引伸機

富士B型 フジナー F4.5 75ミリ付 ¥23,300

ラッキーII C ラッキー F3.5 75ミリ付 ¥1,8000

新 版

ヤシカフレックス写真術

昭和30年 8月10日 初 版 発 行
昭和31年 8月20日 改 訂 版 発 行
昭和32年 2月 5日 再改訂版発行
昭和32年 7月 1日 新 版 発 行
昭和32年12月 1日 新版第二版発行

非 売 品

編 集 普 及 部

発 行 者 牛 山 治 三 郎

東京都新宿区市谷加賀町一ノ二

印 刷 所 大 日 本 印 刷 株 式 会 社

発 行 所 八 洲 光 学 工 業 株 式 会 社

本 社 東 京 ・ 日 本 橋 室 町 1—8

営 業 部 東 京 ・ 芝 田 村 町 4—6

諏 訪 工 場 長 野 県 下 諏 訪 局 区 内

大 阪 サ ー ビ ス
ス テ ー シ ョ ン 大 阪 市 南 区 鰻 谷 西 之 町 3

Yashica